

排水対策早見表

2020年1月作成
島根県農業技術センター

◆ 調査日 令和 年 月 日

◆ 調査ほ場番号

◆ 作付予定品目

1. 作付予定ほ場周辺の確認項目(口にチェックを入れる)

- ① 水稻ほ場と隣接しているか いいえ はい
- ② 用水からの流入があるか いいえ はい
- ③ 道路から雨水が流入するか いいえ はい

外部から流入の可能性がある1辺に
未耕地を挟む**二重明渠**を施工



2. 作付予定ほ場内の確認項目(口を計測)

① 田面から落水口底面までの落差 cm

30cm以上あるか

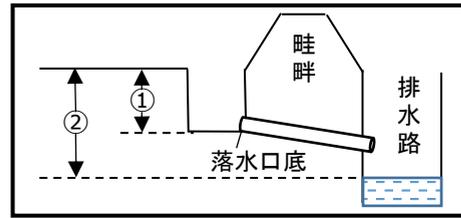
はい

いいえ

落水口位置を下げ
ることが可能か

いいえ

ほ場変更



② 田面から排水路水面までの落差 cm

50cm以上あるか

はい

いいえ

対策A

③ 礫層の出現位置

cm

田面~40cmの間

40~60cmの間

60cm以下または礫層なし

対策B

④ 本暗渠の敷設

あり

このほ場で数年間
畑作を継続するか

はい

いいえ

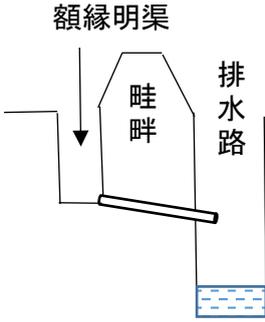
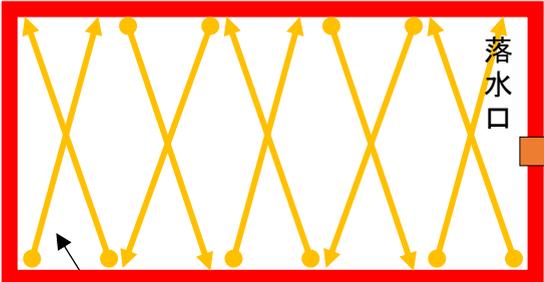
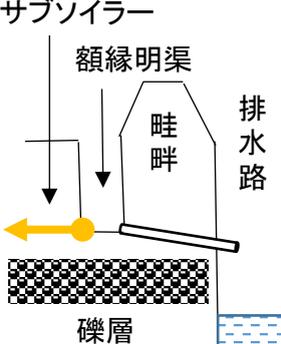
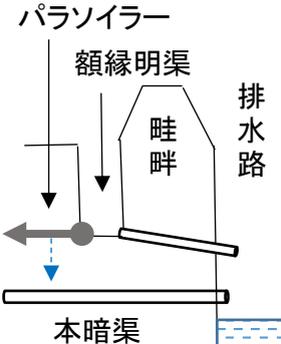
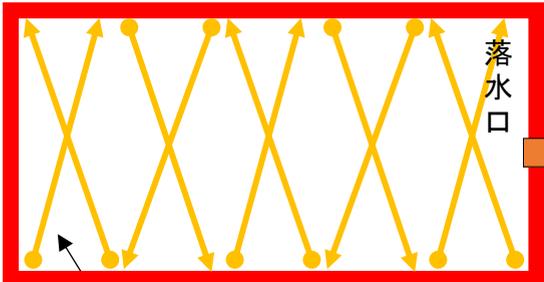
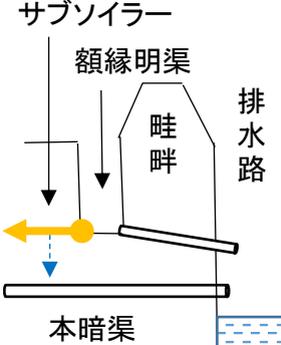
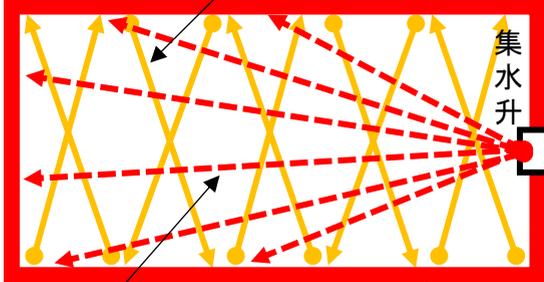
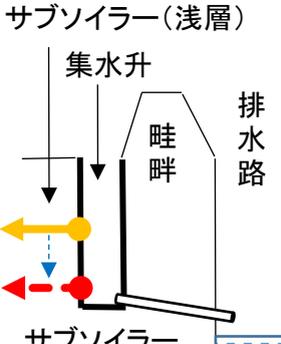
対策C

対策D

なし

対策E

排水対策施工方法

対策	概要	平面図	側面図
A	<p>◆地下水位が高く、地下排水対策が逆効果となる可能性がある。もしくは、礫層が、田面～40cmと高い位置から出現するため、地下排水対策が不要となる。そのため、地表排水対策を徹底する。</p> <p>①額縁明渠の施工 ②高畝を成形</p>	 <p>落水口</p> <p>額縁明渠</p>	 <p>額縁明渠</p> <p>畦畔</p> <p>排水路</p>
B	<p>◆額縁明渠に加え、サブソイラー施工が必要となる。サブソイラーで耕盤に亀裂を入れ、地下排水を促す。礫層は40～60cmに出現するが、サブソイラー施工に影響はない。</p> <p>①額縁明渠の施工 ②サブソイラーの施工(斜めがけ、5m間隔、深さ30cm)</p>	 <p>落水口</p> <p>サブソイラー</p> <p>額縁明渠</p>	 <p>サブソイラー</p> <p>額縁明渠</p> <p>畦畔</p> <p>排水路</p> <p>礫層</p>
C	<p>◆額縁明渠に加え、パラソイラー施工を行う。畑作を数年間継続するため、パラソイラー施工が合っているほ場である。パラソイラーにより、耕盤を全層破碎し、本暗渠までの地下排水を促進する。</p> <p>①額縁明渠の施工 ②パラソイラーの施工(全面に施工、深さ30～40cm)</p>	 <p>落水口</p> <p>パラソイラー</p> <p>額縁明渠</p>	 <p>パラソイラー</p> <p>額縁明渠</p> <p>畦畔</p> <p>排水路</p> <p>本暗渠</p>
D	<p>◆額縁明渠に加え、サブソイラー施工が必要となる。サブソイラーで耕盤に亀裂を入れることで、本暗渠までの地下排水を促す。</p> <p>①額縁明渠の施工 ②サブソイラーの施工(斜めがけ、5m間隔、深さ30～40cm)</p>	 <p>落水口</p> <p>サブソイラー</p> <p>額縁明渠</p>	 <p>サブソイラー</p> <p>額縁明渠</p> <p>畦畔</p> <p>排水路</p> <p>本暗渠</p>
E	<p>◆本暗渠がないため、集水升からサブソイラーを放射状に施工し、水みちを形成する。さらに、その上層にサブソイラーを施工し、地下排水を促す。</p> <p>①額縁明渠の施工 ②集水升(縦・横1m、深さ60cm) ③サブソイラーを深層に施工(放射状、深さ40～50cm) ④サブソイラーを浅層に施工(斜めがけ、5m間隔、深さ30cm)</p>	 <p>サブソイラー(斜めがけ)</p> <p>集水升</p> <p>サブソイラー(放射状)</p> <p>額縁明渠</p>	 <p>サブソイラー(浅層)</p> <p>集水升</p> <p>畦畔</p> <p>排水路</p> <p>サブソイラー(深層)</p>